



校長 酒井治己

本日ここに、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校本科176名、専攻科45名、水産学研究科9名の平成29年度卒業式並びに修了式を挙げるにあたり、水産大学校校長として式辞を申し上げます。

卒業生、修了生諸君の未来を祝福するとともに、これまで支えてこられた保護者の皆様にも、心からお祝い申し上げます。また、長谷成人 水産庁長官、前田 晋太郎 下関市長、水産大学校同窓会滄溟会 本村 紘治郎 会長、水産大学校後援会 濱田盛承 専務理事並びに 佐々木 満 理事をはじめご来賓の皆様、また水産研究・教育機構からは 和田時男 理事にご臨席を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、水産研究・教育機構の人材育成部門である水産大学校は、今年で創立77周年の歴史と伝統を誇る水産高等教育機関であり、水産教育一筋に邁進し、これまで水産業界に約1万名の卒業生を送り出してきました。諸君にはその一員、すなわち同窓生となる事に誇りを持って欲しいと思います。

思い起こせば、諸君は5倍以上の難関を突破して本校に入学してきました。その後本校の実学重視の水産学教育を受け、社会人としての基礎力、適応力、開拓力、解決力を学んだはずで

す。これからは実社会での様々な課題に自ら立ち向かい、乗り越えて行く必要に迫られます。身に付けた力とリーダーシップを遺憾なく発揮し、経験からのフィードバックを取り入れて、これからの日本ならびに国際社会の発展に貢献して戴きたいと思いをします。

実社会ではグローバル化の波の中で、人、物、金、情報が流動化し、一方でナショナリズムも洗い出されるなど、一つの価値基準ではなかなか事が進まないようになってきています。予期せず世の中の価値の潮目が変わる事も有り得ます。諸君は、そのような時代の激流を泳ぎ切る必要に迫られます。そこで諸君の助けとなるのが様々な人との繋がりです。1万余名の同窓生がまさに諸君の水産界における人脈となるのです。人脈がいかにか大切な事か、歳を重ねるごとに身にしみて分かってくるのではないかと思っています。

実社会は、温かくまた時に厳しく諸君を受け入れてくれるはずで、社会での多くの人との連携をどうぞ大切に、さらに学び、柔軟かつしぶとくご活躍ください。そして、数年後には本校の後輩を包み迎えるような社会の先輩とならんことを念願するとともに、諸君の健闘を心より祈念し、式辞といたします。